



「おやこであそぼう」に参加した親子

## 5/14 気分転換で子育て応援

旧菊川小学校体育館で「おやこであそぼう」が開催されました。

これは、親子のふれあいの時間を作ること、子育て中の保護者のストレスを軽減することを目的として、家庭教育支援チーム「あいなん子育て応援グループ」が実施したものです。参加した約50組の親子は、男性保育士会やボランティアの協力のもと、リズム遊びやマジックショー、紙ひこうき大会、パラバルーンなど、楽しい時間を過ごしました。

参加した親子からは、「家ではできない遊びができて楽しかった」、「ほかの親子と話しができて、気分転換ができた」などの感想が聞かれました。

## 5/20 身近な自然環境学ぶ 長月でホタル観賞会

長月地区でホタル観賞会を開催しました。これは身近な生き物が生息できる自然環境を知ってもらおうと長月公民館が「長月夢の森事業」の一環として毎年開催しているものです。今年も長月小学校の児童や保護者ら約50人が参加し、ホタルが川の上を舞う幻想的な光景を楽しみました。

5年生の稲田若菜<sup>わか菜</sup>さんは「今日、今年のはじめてのホタルを見て、こんなにもきれいだったんだと驚いた。来年も鑑賞会に参加したい」と話しました。



手のひらのホタルを見つめる子どもたち

# あんなことや、 こんなこと—TOWNコミュ

## 本日!海日和!! vol.80 「竜宮城」



オトヒメエビのペア

7月になると県内でも海開きのニュースが聞こえてくるようになる。鹿島周辺にはカラフルなサンゴが多く、ダイバーの間では竜宮城にたとえられることも多い。

そのサンゴの中に美しいエビが住んでいる。その名もオトヒメエビ。やはり竜宮城には乙姫様がいるのである。乙姫に例えられるだけあって、純白の体に赤色の帯が美しく、ダイバーの憧れでもある。岩やサンゴの隙間に住んでいて、鮮やかな色彩は水中でもよく目立つ。7cm程の小さなエビだが、長い足や触角をたなびかせている様子は優雅で見とれてしまう。

オトヒメエビに魅了されるのはダイバーだけでない。ウツボなどの大きな魚も体に付いた寄生虫を食べてもらいにやってくる。その時に間違えて食べられないように、赤白の目立つ色彩をしていると言われている。

私も美しい乙姫様に魅了されて、いつまでも海の中において、浦島太郎になってしまわないよう気をつけなければ…。

(撮影地：鹿島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照<sup>ともてる</sup>

## 5/20 スラックラインに挑戦!

子どもたちに愛南の自然の中でたくさんの体験を持ってもらおうと須ノ川公園と御荘南レク児童公園でスラックライン教室を開催しました。

スラックラインは、ベルト上のラインを張ってその上を歩いたり、ジャンプしたりするスポーツです。この日は、町内の小中学生 16 人が参加し、一般社団法人日本スラックライン連盟愛媛県支部の藤原伸夫<sup>のぶ</sup>さんから基本となる動作を教わりました。

柏小学校の山口朔<sup>さく</sup>くんは「初めてやってみて、とてもおもしろかった。上手くできないこともあったけど、また挑戦したい」と話しました。



スラックラインに挑戦する子どもたち

## 5/24 政治や選挙もっと身近に

政治や選挙に対する理解を深めようと南宇和高校で2、3年生を対象にした高校生主権者教育講座が行われました。

講座では、愛媛県南予地方局地域政策課の永井地域支援係長と町選挙管理委員会の和田課長補佐による講演が行われ、その後、生徒たちは実際に2人の立候補者を立てて政策を訴える演説会を開き、模擬投票作業を通して政治や選挙の仕組みについて学びました。

入江大貴<sup>だいき</sup>さんは「今日の講座を通して政治や選挙のことが身近になった。選挙権を持ったなら選挙に行ってみよう」と感想を話しました。



模擬投票後、手際よく開票作業を行う南宇和高校生

## 6/5 防災リーダー育成をめざして

自主防災組織の活性化と人材の育成を目的に「自主防災組織連絡協議会総会及び自主防災リーダー育成研修会」が御荘文化センターで開催され、町内の自主防災会長ら約 60 人が参加しました。

研修会では、講師の大木聖子<sup>さとこ</sup>さん（慶應義塾大学環境情報学部准教授）が「防災は、将来のために今をプラスにすること。将来だけでなく今の生活や子どもたちの成長面にプラスに働く作用があることを知ってほしい」と参加者に訴えました。



地震リスクと防災教育について講演した大木聖子<sup>さとこ</sup>先生